

令和5年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和6年3月26日（火） 午前10時27分から12時まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広、岡野 創造、松本 重雄、
山本 みどり、白須 正、小畑 英明、
監 事 長谷川 佐喜男、中島 俊則
事務局 長谷川経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 令和6年度年度計画（案）について（議題）

資料1に基づき、事務局から報告。

- 当院はセカンドオピニオン外来を設置しているのか。また、高度で専門的な機能を持つ外来医療とは何を指しているのか。
 - セカンドオピニオン外来は以前から設置しているが、年間件数は多くない。高度で専門的な機能を持つ外来医療とは、最先端医療に対応した外来機能を運用していくことを指している。
- 令和6年度年度計画の策定に当たっての考え方として、職員一人一人が経営参画する組織へ成長することと設定しているが、そのための具体的な取組は行っているのか。現在、“はしか”が流行しているが、新興感染症に向けた取組はどうか。また、紹介患者の受入体制の充実を図ると定めているが、現在の取組状況について教えてほしい。
 - 収益的収支の向上に向けて、令和6年度の目標数値は高く設定されているが、それに伴う人的パワーは備わっているのか。
 - 経営参画については、一人一人が病院を支えるつもりで業務に従事していただきたいことを周知している。病院を良くする取り組みの一つとしてGoodjobの表彰を行っている。受入体制充実取組としては、時間外の紹介受入、救急の断り事例を減らし、紹介患者及び入院に繋がる救急患者の受入れの促進を行い、受入れができない場合は、紹介元に説明し、納得していただけるよう対応していく。5年度から地域連携の受付業務を直営化したことで業務の質が良くなった。
 - また、令和6年度目標数値は確かに高いが、目標を高く持つことで職員の意識を高く持つことに繋がると考えている。
 - 感染症に対しては、令和6年度診療報酬改定において、特定感染症入院医療管理加算が新設され、この算定の中に“はしか”も含まれている。今後、国も感染症に対してしっかり対応していく考え方になってきている。
 - 近隣の医療機関との関係性を深くするために、直接訪問だけでなく、Webでの対話も実施している。また、近隣の医療機関を招いた地域医療フォーラムの開催もっており、今後、新入院患者数を増やしていくための対策に取り組んでいく。
 - 病床稼働率89%を目標に掲げるとともに、職員一人一人に経営について意識を持ってもらうことが大事である。入院単価については、令和5年度の単価水準を参考に令和6年度の目標数値を設定している。
- 病床稼働率89%に向けて、今後、どのように取り組んでいくかが、来年度の経営の大きなポイ

ントとなってくる。医師の働き方改革について、現時点で基準はクリアしているのか。

→ 医師の働き方改革について、2診療科はB水準、それ以外の診療科はA水準で申請している。当院は、他病院より早くから働き方改革に取り組んでおり、当直については、勤務と時間外に変更対応を行ってきた。麻酔科、産婦人科においては時間外がほとんどないため、労働基準監督署に宿日直申請を行い、許可が下りた。

→ 医師の勤務時間を今後、どのように管理していくが課題である。勤怠管理システムの導入を予定しているが、勤務時間と自己研鑽の基準が難しい。

○ PFI事業の期間満了まであと3年であるが、現状はどうか。また、医薬品や医療機器の調達にはSPC京都が行っているのか。

→ 医薬品や医療機器の調達はSPC京都が行っているが、ダヴィンチやリニアックなどの大きな医療機器は病院直営としておりPFI事業は関与していない。SPCに委託してきた。

その中で、建物管理や給食、清掃、受付業務はかなりの人件費がかかるため、SPC京都に委託したことでメリットはあった。一方、今年度、検査業務及び地域連携を直営化したことで業務の効率化を図った。

PFI事業期間満了（令和9年度）を見据えて、引き続き次期病院運営におけるPFI手法の在り方を検討するため、現行PFI事業について効果検証を行うこととしている。

○ 令和6年度年度計画に係る予算や件数目標等のハードルは高いと思う。更に材料費等コストが上昇し、そのうえコロナ以降受診控え等が続くことで、マーケットも縮小してきているため、非常に厳しいと思う。職員にこの厳しさについて共有し、職員一人一人が経営に参画する仕組みづくりを作り上げていくべきである。職員が収益改善に向けて考えていく風土づくりが大事である。

京都市と連携して市民病院としてどこに重点を置いて取り組んでいくかを考え、今後の構想について京都市に提示していくべきである。

京北病院は京北唯一の病院であるため、地域政策医療に力を入れ、デジタル医療なども考えながら、質の高い診療行為を目指していくべきである。

また、年度計画について、ハラスメントに係る記載がないので追記する必要があるのではないかと考える。

→ ハラスメントの追記については、検討する。京北病院については、来年度、京都市において、外部委員も交えて、在り方について討論することを予定している。

→ 運営費交付金について、引き続き、京都市に働きかけていく。

○ 二次救急医療機関としての立ち位置について、考えていく必要がある。

→ 当院は心臓血管外科がないため、二次救急で頑張っていく。

(2) 月次収支（1月まで）報告

資料2に基づき、長谷川経営企画局次長から報告。

京北病院では、2月半ばに介護老健施設でコロナのクラスターが発生し、病棟の制限を行ったため、2月、3月の収支が厳しい状況である。

3 その他

○ 近年、物価が高騰しているため、当院も値上げできるものは考えてもよいのではないかと。

→ 値上げできるものは検討していきたい。

4 閉会